［職場］徳島県
［職業］会社員

［赴任地］ リフトバレー州ナクル県ナクル
［職種］ 村落開発普及員
［派遣期間］ 2013年10月～2015年10月

地域に誇りと活気を生む環境を ケニアで学んだ、ゼロから作り出す前向きな心

上西 はるかさん 喜多機械産業株式會社 営業本部 係長
Haruka Uenishi

社会人3年目。今後のキャリアを考えた末たどり着いたのは、子どもの頃から関心があった海外での挑戦だった。現在は、地元で海外に繋がりながら社会に貢献することができる民間企業で、地域の方々の豊かな生活を目指して奔走中。アフリカ・ケニアで自ら活動を切り開いていった2年間。協力隊経験で得たものが、全て現在の彼女に繋がっている。

生きがいについて考えたとき出た答えが協力隊だった

徳島市の中心部に主な拠点を置く「喜多機械産業株式會社」は、建設機械や土木資材のレンタル・販売・修理を三本柱に、地域に根ざした様々な事業を展開する老舗の専門商社。「とても働きやすい会社なんです」と笑う上西はるかさんは、同社の営業本部で活躍している青年海外協力隊経験者だ。

地元の大学を卒業し、地方銀行員として社会人生活をスタートさせた上西さん。その道筋は極めて順調なものに聞こえるが、3年勤めたとき不意に思った。「このまま私はこの仕事を続けられるのだろうか」。もっと人の喜ぶ顔と直結するような仕事がしてみたい。そう願う自分の気持ちに気付いた上西さんは、以前から聞き覚えのあった青年海外協力隊に応募。2013年からアフリカ・ケニアの地で村落開発普及員として活動を始めた。

首都・ナイロビから車で約2時間半。配属されたのは、農業省のナクル県地方事務所だった。予算の都合で、仕事らしい仕事がないという現実にぶち当たった。唯一行えた活動は、同僚たちの農家訪問の同行のみ。自分の存在意義について悩み、焦りを感じていた時、様子を見かねた教育関係の協力隊同期からもらった「学校で農業を教えてみては?」というアドバイスが活動のヒントになった。

周りの人たちに支えられてゼロから農業クラブを発足

都市化したナクルの課題は、次世代の農業を担う人材育成だった。そこで上西さんは、1～8年生の生徒を対象に「農業クラブ」を発足。農業を専門とする同僚が指導を担い、校庭の一角で野菜の栽培・収穫・販売を行った。実習・巡回指導の調整サポート、垂直農

営業本部にて、営業資料やチラシ作成などの営業支援を行う。高いパソコンスキルは社内で重宝されているそう。

新規ビジネスのミーティング風景。軌道に乗るまで何度も戦略を練り直し、試行錯誤を重ねる。

現在上西さんが海外事業展開を業務支援している子会社の、トレーニング機器ブランド製品。

業の指導なども精力的に展開させた。「ある時から、人のためだけではなく自分の成長のためでもあると考え方をスイッチできたことで、少しずつ今の自分にできることを業務に変換することができるようになったと感じています」。

農業の豊富な専門知識を持て余す同僚たちのサポートをするべく、パソコンの使い方を指導したり、データの可視化で職場環境を整えることに努めた。資料の作り方を教えてほしいと言われたことが嬉しかったのを、今でも覚えている。周りに与えられてばかりだった2年間。同僚や現地の方が支えてくれたからこそ実現できた活動だった。「地元の人を中心に、様々な人を巻き込むことが地域の活性化につながるのだと2年間の活動で学びました」。

地域を活性化し、人々の生活がより豊かになるような環境を

帰国後は、大好きな地元でやりがいを持って社会に貢献できる仕事を目指した上西さん。JICA国際協力推進員として働く中で出会ったのが、JICAのビジネス支援事業を活用して海外事業に積極的に取り組んでいる喜多機械産業株式會社だった。地方企業の技術が海外で通用する可能性や、人々の生活に貢献できる事業展開に強く惹かれた。ここでなら、地元にいながら地域や世界とつながり社会貢献ができるかもしれない。その継続性を考えた時、ビジネスは最適解だ。そう考え、2018年5月に同社に入社した。「民間企業の魅力はフレキシブルさ。自分のアイデアが形になりやすく面白みがあるのでやりがいがあります」。

アフリカ地域でのビジネス展開を目的としたケニア出張や、TICAD（アフリカ開発会議）に出展する機会に恵まれたのは、入社して間もなく。協力隊の経験が生かされていることを感じた。

現在は営業本部に籍を移し、係長として活躍中。社内の広報的な営業支援をメインに、千葉にある日本発のスポーツ器具を扱う子会社の海外輸出事業に関する業務支援を行っている。子会社には英語話者がおらず、白羽の矢が立ったのが語学力を持つ上西さんだった。オーストラリアや台湾の代理店とのやりとりなど、未経験の業務をこなすうちに、動じず前向きに何にでも挑戦できるようになっている自分の成長に気付いた。

いざ地元を見つめ直してみると、地元の人たちの地域に対するネガティブな言葉が気になった。社会の人たちが自分の地域に誇りを持ち、もっと生き生きした生活ができれば。現在の仕事を通じて目指すことは、地域の活性化と、そこに住む人々の誇りを取り戻すこと。そのために、まず自分の周りの人たちがストレスなく働ける環境を作り、人々の生活がより豊かになるような事業提案のサポートをしていきたいと考えている。「まだまだやれることはいっぱい。仕事がなければ自分で生み出せばいいんですよね」と笑う上西さんの前向きなしなやかさが心地よく響いた。

上西 はるかさん プロフィール

徳島県出身。徳島大学総合科学部卒業後、銀行勤務を経て青年海外協力隊としてケニアへ赴任。帰国後、JICA徳島県国際協力推進員を経て、2018年喜多機械産業株式會社入社。現在は営業本部係長。

上西さんへのエール！

喜多機械産業株式會社
執行役員
門脇 靖宏 さん

高いコミュニケーション能力でみんなをサポートして

彼女の魅力は、コミュニケーション能力に長け、自分で考える力を持っているところ。ズバッと自分の考えを主張してくれることで、効率のいい仕事が一緒にできていると感じます。私が今まで出会った中でも間違いなく優秀な人材で、芯が強く動じないところも職場で頼られている所以ではないでしょうか。協力隊時代に培った語学力は、グループ会社の海外取引の際に非常に重宝されています。これからも新規ビジネスの企画に携わるなど、様々な面でみんなをバックアップしていってほしいですね。